

こうち志議会

(こうちこころざしぎかい)

会 議 録

事務局長：

開会にあたりまして、記録写真の撮影を行います。議員、及び執行部の皆様は、ご着席のまま待機していただくよう、お願いします。

岸本陽奈 議長：

これより高知市立中学校、義務教育学校、高等学校の生徒による令和5年度こうち志議会を開会いたします。本日、議長を務めさせていただきます、高知商業高等学校、岸本陽奈です。よろしくお願ひします。

まず、こうち志議会の開催にあたり、岡崎市長からごあいさつがあります。岡崎市長。

岡崎市長：

皆様、こんにちは。

ただいまご紹介いただきました高知市長の岡崎でございます。

令和5年度「こうち志議会」の開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日開催されます、この「こうち志議会」は、高知市の教育大綱の基本目標の一つであります「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」の実現に向け、「土佐の先人のように志をもち、自ら未来を切り拓いていくことのできる人になってほしい」との思いを込めまして、開催をいたすものであります。

コロナで過去、様々な要因はありましたが、今年で「こうち志(こころざし)議会」の開催は6回目となります。これまで、中学校、義務教育学校のみなさんからは、日頃感じております学校のことや地域のこと、また、防災活動、交通安全対策、環境の問題、また特別なニーズに対応する教育などにつきまして、それぞれ具体的にご提言をいただいているところです。

また、高知商業高等学校の皆さまからは、高知市の市政に関します学習会を行ったうえで、その学習会の中からそれぞれ発生しました高校生ならではの斬新な視点からご質問をいただいております。高知市としましても大変参考になるご質問をいただいております。

さて、高知市のまちづくりの指針となります「総合計画」ですけれども、2021(令和3年度)年度から2030(令和12年度)年度までになります。10年間の施策を体系的に示します「後期基本計画」

を策定したところでございます。今回の「こうち志議会」で皆さま方からいただいたご提言も参考にしながら、明るさとにぎわいに満ちました元気あふれる高知市を目指してまいりたいと考えております。

これまで、ご参加いただきました中高生の皆さんからは、私ども執行部に対しまして、大変参考となるご提言をこれまでいただいております、各学校におきまして、様々な活動を通じ、自分たちの学校や地域をさらに素晴らしいものにしようとされております皆さまの取組は、敬意を表するところではあります。

また、本日の「こうち志議会」の準備において、生徒の皆様方が議員となって夢や希望を実現できる社会や、皆さま方の未来について語り合うことを通じて、市政のしくみについて学んでいただき、有権者、もしくは将来の有権者としてそれぞれの政治に関心をもっていただける場となれば幸いです。

この「こうち志議会」を通して得られました学びや気づきが、これからの学校生活の充実につながり、さらには、皆さま方の未来にもつながる有意義な一日となることを、期待をしているところです。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

最後になりますが、今回の「こうち志議会」の開催にあたりましては、それぞれ長期にわたりまして熱心にご指導いただきました、各学校の先生方にも心から御礼を申し上げ、また、今日たくさんの傍聴に来ていただいている傍聴席の皆さまにも御礼を申し上げまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

今日はよろしくお願ひ申し上げます。

岸本陽奈 議長：

それでは、一般質問を始めます。

高知商業高等学校 岡田咲 議員：

1 番。

岸本陽奈 議長：

高知商業高等学校 岡田咲 議員。

高知商業高等学校 岡田咲 議員：

はい。

高知商業高校では、高知の活性化およびラオス学校建設活動の推進を目的としたグローバルフェスティバルを昨年の11月から第一土曜日・日曜日に開催しています。昨年度は、中心商店街の活性化を目的に高知大丸にてグローバルフェスティバルを実施しました。当日は県内外からたくさんのお客様にご来場いただき100万円以上を超える売り上げがありました。

第2回となる今年度は学校を地域の新たなコミュニティとした地域の活性化を目的に本校の体育館にてグローバルフェスティバルを行います。本校の体育館を2つのブースに分け一方は高知の日曜市、もう一方ではラオスのナイトマーケットという、両国の伝統のマーケットにて特産品の販売を企画しています。

そのグローバルフェスティバルでは、模擬日曜市を開催し、日曜市の文化を若者へアピールします。

そして本会議に参加される議員の皆さんにもグローバルフェスティバルの販売活動に参加していただき、私たちの若い力で高知のさらなる活性化、そして国際協力を推進したいと考えています。

そこで質問があります。高知市と連携し、街路市に出店されている方に私たちの企画を提案する機会を設けていただけないでしょうか。普段日曜市で販売されているものを、グローバルフェスティバルでも販売したいと考えています。

地域・世界の文化交流や国際協力・地域貢献のための高知市の皆様との協力をどうぞよろしくお願いいたします。

今西 商工観光部長：

商工観光部長。

岸本陽奈 議長：

今西 商工観光部長。

今西 商工観光部長：

高知商業高校の皆さんには、日頃から、日曜市への出店や、出店小間での販売体験などを通じ、本市街路市の活性化にご協力をいただいております、この場をお借りしまして、改めてお礼を申し上げます。大変ありがとうございます。

また、長年続けておられるラオスとの交流活動が、参加する生徒の皆さんが国際的な舞台で活躍し、学び、成長する機会となっていることに心から敬意を表しますとともに、この活動が国際文化への理解を深め、グローバルな視野を持つための活動として、今後も長く続くことを、期待をしております。

さて、ご質問のあった街路市出店者へグローバルフェスティバルの企画説明でございますが、高知の活性化と国際協力の推進、また「日曜市」の文化を守るというこのイベントの趣旨に大いに賛同するところでありまして、商工観光部としても、可能な限り協力をしていきたいと考えています。

説明方法ですが、街路市の出店者が約400名と沢山いらっしゃることから、全員の予定を調整し、一同に集めて説明会を開催する方法は、現実的には困難ですので、例えば、本市の街路市担当職員とともに各曜日市に出向きまして、活動内容を分かりやすくまとめたチラシなどを配布しながら個々に説明するといった方法などが考えられます。

具体的な方法や時期につきましては、岡田議員様と一緒に考えていく機会を確保し、実現につなげていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

行川学園 大平朝日 議員：

2番。

岸本陽奈 議長：

行川学園 大平朝日 議員。

行川学園 大平朝日 議員：

はい。

高齢者が免許を返納した場合、公共交通機関がない行川地区での生活保障について

私たちの校区の行川地区は高齢化が進んでいます。平成29年に路線バスも廃止になりました。

私たちは通学でデマンドタクシーを利用させてもらっていて、地域の方々はいつも私たちのことを気にかけてくれています。

地域の方が利用する場合、デマンドタクシーは、鳥越バス停までの運行で、そこから公共交通機関を利用しなければいけません。また、一日の本数も限られていて、利用率はあまり高くないと聞きました。高齢者はやがて、自動車運転免許を返納する時期がくると思います。報道等で交通事故等のニュースの際、高齢者による事故も多く、高齢者が自分で運転しなくても、不便を感じないような状況にできないものだろうかと考えています。私たちの通学での利用はもちろんですが、地域の方にとっても利用しやすいデマンドタクシーにしてほしいですし、他にも生活保障として、どういったことが考えられているのか、ぜひ教えていただきたいです。また、回答の結果を地域との学習会でお知らせしていきたいと思っています。

中城 市民協働部長：

市民協働部長。

岸本陽奈 議長：

中城 市民協働部長。

中城 市民協働部長：

行川地区の公共交通についてご質問いただきましたので、お答えをさせていただきます。

行川地区の公共交通は、平成29年9月末まで路線バスが運行していましたが、利用者の減少により路線の維持が困難となったため、平成29年10月からは路線バスに代わり、デマンド型乗合タクシーを導入しています。

デマンド型乗合タクシーは、主要な道路のみ運行する路線バスと違って、小回りの利くタクシー車両で、行川地区にお住まいの皆様のご自宅近くから鳥越バス停までを運行する予約型の公共交通として運行しています。

しかしながら、行川地区のデマンド型乗合タクシーの利用実績を見てみますと、ご質問のとおり行川学園の児童・生徒の皆様以外の利用が非常に少ないのが現状です。

このため、本市としましては、行川地区の利用促進の一環として、デマンド型乗合タクシーのダイヤや便数、利用方法などを掲載したリーフレットを地区の全世帯に配布するとともに、運転免許証を返納された方や運転に不安を感じている高齢者の方々にも、積極的にご利用いただけるよう、広報を充実させてまいりたいと考えています。

また、これまで行川地区から鳥越バス停まで運行していたものを、本年10月からは日曜日と祝日のみとなりますが、電車通りの鏡川橋バス停やイオン旭町店のある旭町三丁目バス停まで延伸させることも予定しています。

今後は、こうした利用促進の取組や運行内容の見直しを適宜実施しながら、行川地区をはじめとする、路線バスが減便や廃止となったエリアの皆様にとって、より便利な移動手段を提供できるよう、地域住民の皆様や交通事業者など関係者の方々とも協議を行いながら、より良い公共交通体系を築い

てまいります。

城北中学校 秋山由愛 議員：

3番。

岸本陽奈 議長：

城北中学校 秋山由愛 議員。

城北中学校 秋山由愛 議員：

はい。

城北中学校の秋山由愛です。高知市の成人式の開催内容について提案させていただきます。

近年、成人される方々は、約3年前に流行し始めた新型コロナウイルスの影響により学生時代に多くの行動を制限されてきたため、楽しかった思い出が他の世代の方々より少なかったと思います。したがって、20歳の節目となる成人式には多くの期待を寄せているのではないかと思います。

そこで、これから成人式を迎える方々の期待に応えられるように、またこれまで以上に参加者が増えるような賑やかで活気のある成人式にするために、私たちは次のような提案をしたいと思います。

それは「式典会場へのゲスト招致と SNS を用いての情報発信」です。

まず、式典会場へのゲスト招致についての提案です。最近ではコロナによる行動制限が緩和されていることから、ゲストの動画を会場で流すのではなく、ゲストが式場に来てお祝いのメッセージを直接伝えることが良いのではないかと考えます。ゲスト候補については、一生の思い出に残るような特別なゲストを招くことで参加者の記憶に強く残り、「高知市の成人式に参加して良かった」と思ってもらえたと考えました。

もう一つの提案が SNS を用いた広報活動です。まず、ゲスト招致の参考にするために、成人式用 Instagram や Google フォームなどを使ってアンケートをとることを考えました。例えば、どんなゲストに来て欲しいか、どんな催しがあると嬉しいか、など、成人される若い方々の具体的な意見をいただくことが良いのではないかと考えます。しかし、SNS だけでは十分に情報が伝わらないこともありうるので、テレビ番組やラジオ放送で取り上げてもらったり、有名なインフルエンサーにお願いしたりして拡散してもらおうと、認知度も高くなると思います。

以上の提案は、成人される方々の一生の思い出に残る1日にするためのものではありませんが、それと同時に、成人式を機に帰省される方々が高知市の素晴らしさを再認識する機会の創出の意味も込めています。

成人式は一日の出来事ですが、参加者には一生の思い出にもなりうる高知市にとって大切な仕事であると思います。

高知市の成人式という仕事、つかえるということが、この志議会での提案を通じて志事、ころざすことにつながり、高知市のイメージアップやよりよいまちづくりにつながることを願っています。ぜひ参加される皆さんのため、そして、高知市のためにも開催内容についてご検討いただきたいです。よろしく願いいたします。

岡崎 市長：

市長。

岸本陽奈 議長：

岡崎 市長。

岡崎市長：

大変具体的なご提言をいただきまして、御礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

高知市の成人式ですけれども、副題を「二十歳の祝典」としまして、二十歳を迎えた皆さまの門出を祝福するとともに、これまで成長を見守ってこられましたご家族や、また様々にお世話になった方への感謝と、大人としての自覚について考える機会としていただくことを目的としまして、コロナ禍を除いて毎年開催をしているところでございます。

ご提案のありました「式典会場へのゲストの招致と SNS を用いての情報発信」について少し申し上げます。式典前におけます日程等のお知らせに加えまして、開催の当日ですけれども、式典会場の様子を成人式用の Instagram によりリアルタイムで発信しております。さらにコロナ禍の期間中につきましましては、直接、式典の会場へ来られない方も多くありましたので、YouTube のライブ配信も行うなど、SNS を活用した広報を行ってきたところでございます。

もうひとつの、ゲストの招致ですけれども、当然予算の関係での調整がありますが、例えば今年の成人式では、直接会場に来ることはできませんでしたが、NHK 連続テレビ小説「らんまん」の神木隆之介さんと浜辺美波さんからの直接のメッセージの動画を流させていただいております。また最近では、よさこい鳴子踊りのパフォーマンスなど、毎年、限られた予算ではありますけれども、少しでも皆さま方に楽しんでいただけるように、企画・演出の工夫をしているところでございます。

成人式は主催が教育委員会ということでございますので、教育委員会ではこれまでも、高知市内在住の18歳から30歳までの方々を対象にアイデア委員の募集をいたしまして、式典の内容などにつきましてご意見をお伺いする機会を設けております。今後につきましても、先程具体的な提案がありました Google フォームなど、様々なツールを活用したアンケートを含め、皆さま方から幅広くご意見を頂戴することができるように、このアイデアの募集の段階から、式典に関します認知度を高めていくように、さらに教育委員会と話をしながら、さらに高めていきたいと考えております。

ご質問にありましたとおり、成人式は、二十歳を迎えました皆さま方と人生の思い出に残る「人生の1ページ」となる企画でありますので、一緒に企画を練り上げたり、作り上げたりすることにより、より心に刻まれていくものと考えます。新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、大学生の方々をはじめ、学生時代をさまざまな制約のもとで過ごされてこられた方々も多くおられますので、先ほどいただきましたアイデアを、アイデア委員や SNS への積極的な参加も含めまして、我々も輪を広げていきたいと思っております。

そして、その経験を一つのきっかけとしまして、それぞれの社会での活躍されることを我々一同、それぞれの未来を切り開いていける皆さま方の将来があることを強く願っておりますので、具体的にいただきましたアイデアをさらに具体的に教育委員会と検討してまいりたいと思います。

朝倉中学校 宇賀歌里奈 議員：

4番。

岸本陽奈 議長：

朝倉中学校 宇賀歌里奈 議員。

朝倉中学校 宇賀歌里奈 議員：

はい。

高知県の人口が令和4年時点で68万人を割り、人口減少が止まりません。そのため、高知県を活性化させるためには高知へのIターン就職など高知県に定住してもらうことが必要であると私たちは考えています。

朝倉地区には、高知大学に進学するために県外からたくさんの方が来ます。全学生の約75%が高知県外出身となっており、地方の大学としてはとても高い数値となっています。

小学生の頃には、大学生のボランティアの皆さんとの交流などがあり、憧れのような存在だったことを覚えています。

しかし、令和3年度の高知大学生の県内就職率は30.5%となっており、高知県への就職率はそれほど高くないことがわかります。県外から来た魅力ある人材が、また県外に戻ってしまうことは、とてももったいないことのように思います。

そこで、お伺いします。大学生などを始め、県外の方に高知を気に入ってもらい、定住してもらうために高知市では、どのような取組をしているのでしょうか。教えてください。

中澤 副市長：

副市長。

岸本陽奈 議長：

中澤 副市長。

中澤 副市長：

高知県の人口減少の問題に着目されまして、ご質問をいただきました。ありがとうございます。

人口減少は地域の小売、娯楽、医療機関など生活に必要なサービスの縮小や、バス・電車など公共交通の衰退、コミュニティ機能低下などに加え、経済や産業活動の縮小によって、生活の利便性や、地域の魅力や活力の低下に繋がるものと考えられますので、全国の多くの自治体にとって大変大きな問題となっています。

宇賀議員のご質問にありました高知県の人口ですが、令和5年7月1日時点では推計66万8,172人と昨年10月からさらに減少が進み、その中で高知市も31万8,480人と一年前と比べ3千人余り減少しました。

人口の増減には、出生と死亡に伴う「自然動態」と、自治体への転入・転出に伴う「社会動態」の二つの要因がありますので、高知県へのU I Jターンや定住の促進などによる社会動態増加に向けた本市の取組についてお答えします。

ご質問では、高知大学の状況について、色々ご説明をいただきましたが、高知県が令和元年度に実施した「就職・進学希望地等意識調査」の中で、県内在住の大学生等に県外へ就職する理由を質問したところ、「地元だから」が一番多く35%、次いで「生活環境・文化が好きだから」25.3%と、転出地域への愛着や魅力を感じての回答が多い一方、「転出先に希望する就職先があるから」との回答も21.3%ありました。

また、高知市長が市民の皆さんと行う「市長と語ろう会」や、本市が高知大学の学生と移住・定住について意見交換をする中では、県内で働く場合の給料など待遇面の不安や企業情報の不足、交通の利便性の課題について、学生の皆さんからご意見を多くいただいたところです。

その他にも、学生生活を送る中で、高知の自然や食、よさこいなどの文化に触れる機会が少ないなどのご意見もいただいたことから、まずは高知で生活することの心地よさや魅力、そして県内企業の状況などについて、県外から来られている皆さんによく知っていただくことが重要であると考え、大学と連携して本市への移住・定住に関するPRを行うなどの取組を進めています。

また、移住・定住促進の取組としては、県外の移住希望者の方々を対象にした移住相談会への参加や、SNS・動画配信等による高知市のPRを行っているほか、働く場の一つとして県外からのUIJターン希望者に特化した高知市職員の採用試験も、毎年実施しています。

移住された皆さんには、定住していただくことを目的に、柚子や四方竹の収穫体験などを通じて、地域の方々や他の移住者と交流を深める移住者交流会を開催しています。

今後も、移住を考えている県外の方々に対して高知市を積極的にPRするとともに、県内在住の大学生などに本市の魅力や移住・定住の取組、企業に関する情報を提供し、本市への移住・定住の促進に取り組んでまいります。

愛宕中学校 畑中将希 議員：

5番。

岸本陽奈 議長：

愛宕中学校 畑中将希 議員。

愛宕中学校 畑中将希 議員：

はい。

コロナ禍後の地域防災交流について質問させていただきます。

愛宕中学校では、今年の1月に地域参加型防災訓練を行いました。この防災訓練はコロナ禍前も行っていました。今年の防災訓練時は、コロナがまだ5類になっていなかったため、屋上に避難することはできませんでした。しかし、避難所設営は昨年の志議会でもいただいた返答をもとに取り組みしました。

防災訓練を通して、災害時の流れと沢山の地域の人と関わり、災害時に協力して何ができるのかについて学ぶことができました。

また、防災訓練が終わった後の生徒会の反省では、「災害に備えて地域の方々とは貴重な交流ができた」「受付と誘導の連携をよりスムーズに行うためにはどのようなことが大切か」「地域の人と、普段からどのようなコミュニケーションを取れば急な災害にも慌てずに行動できるか」などの意見が出て

きました。

生徒会で話し合った結果、新型コロナウイルスにより、地域との関わりが以前と比べて薄れたことも影響し、実際に南海トラフ地震などが起こることを考えると、訓練よりも更に多くの方々が避難してくるため、連携が取りにくくなるのではないかと思います。

私たちは、より多くの地域の方々と協力し、繋がりを求める必要があると考えています。そこで、まだコロナの不安が残る状況下でどのような防災訓練をすれば、お互いに交流ができるのか。また、次回の防災訓練ではどのようなことに気を付ければいいのかを教えてくださいたいです。

山崎 防災対策部長：

防災対策部長。

岸本陽奈 議長：

山崎 防災対策部長。

山崎 防災対策部長：

本年1月に愛宕中学校で実施した防災訓練につきましては、感染症による制約の中、地域の自主防災組織と連携して避難所開設などの訓練に取り組んでいただいたことに、厚く感謝を申し上げます。

生徒会での振り返りにございましたとおり、3年以上続いたコロナ禍では感染対策のために学校と地域の交流の機会が大きく減少しましたので、災害時に、生徒の皆さんが地域と連携して避難所運営などを円滑に行うためには、地域とのつながりをコロナ前のレベルに回復し、さらには充実させていくことが必要だと思います。

地域の方々との交流を深めるには、まず、ご近所の方との挨拶や声掛け、町内会や地域団体の夏まつりや運動会など、地域行事への参加や協力が挙げられます。

防災の視点からは、より多くの地域の方々と交流するために一般的な避難訓練や避難所開設訓練に加えて、参加者の皆さんで楽しめるイベントを取り入れてみてはいかがでしょうか。

いくつか例を挙げますと、地域の運動会の競技に防災の要素を取り入れ、楽しみながら防災の知識を学べる「防災運動会」や、災害へのイメージトレーニングとなる避難所の運営を図面の中で模擬体験できる「避難所運営ゲーム」、災害時の備えについて子供も大人も学べる「防災すごろく」・「防災かるた」などがあります。

感染症の影響は続いておりますので、基本的な感染対策が前提とはなりますが、このようなイベントであれば、地域の皆さまと一緒に、ゲーム感覚で防災について楽しく学びながら、様々な世代の方と交流を深めることができると思います。

こうした訓練やイベントを通じまして、生徒の皆さんが地域の方と一緒に考え、行動し、共に学んでいくことが、地域とのつながりを深めることになり、災害時には大きな地域の力となりますので、これからは是非継続して取り組んでいただき、将来は地域の防災において、中心的な役割を担っていただけることを期待しております。

城東中学校 伊藤陽彩 議員：

6番。

岸本陽奈 議長：

城東中学校 伊藤陽彩 議員。

城東中学校 伊藤陽彩 議員：

はい。

城東中学校の伊藤陽彩です。高齢者の方々との交流・配慮について質問させていただきます。城東中学校では、今年の10月に「城東マルシェ」という地域一体型のイベントを行います。「城東マルシェ」では、生徒が主体となってお店を出店・経営し、普段なかなか交流することのできない地域の方々との交流を深めることによって、今後の地域活動をスムーズに行うことが可能となります。

「城東マルシェ」に来ていただける方々のなかには、高齢者の方もいらっしゃいます。私たちがお店を出店する際の商品や、お店の配置等を工夫することにより、安心してお買い物を楽しんでいただけたと思います。城東中、3年生全体で、試行錯誤していますが、なかなか良い案ができません。様々な方が楽しんでいただけるような工夫点や支援方法について一考していただけたらと思います。ご回答よろしく申し上げます。

橋本 健康福祉部長：

健康福祉部長。

岸本陽奈 議長：

橋本 健康福祉部長。

橋本 健康福祉部長：

私の母校であります城東中学校の生徒の皆さんが主体となって地域の方々と交流を進める地域一体型のイベント「城東マルシェ」、大変すばらしい取組だと思います。

また、この「城東マルシェ」の取組において、高齢者の方が安心して参加できるような工夫を検討されていることにも感銘を受けたところであります。

そこでご質問の高齢者の方が安心して買物を楽しむためにご配慮いただきたい点をいくつか申し上げます。

まず、高齢になるにつれまして、足の筋力が低下し、「すり足」になりがちなため、わずかな段差でも躓いてしまうことがありますので、段差や滑りやすい場所が無いか、ご確認をいただければと思います。

また、歩き疲れることも考えられますので、休憩場所などの確保もご検討ください。

加えて、小さな値札等は見えにくい場合もありますので、大きな字で表示をすること、また会話の際は聞こえにくい場合もありますので、そうした場合は大きな声で話すこと、ゆっくりと分かりやすい説明を心掛けることなどのご配慮をお願いしたいと思います。

高齢者の方には、馴染みのある城東中学校の皆様と、買物やイベントを通じて会話することが楽しいと感じていただけたと思いますので、気負わず、いつもどおりに接していただければ良いのではないかと考えております。

企画されております「城東マルシェ」におきまして、地域の皆様との交流が生まれ、多くの方にと

っての楽しい時間となることをお祈り申し上げますとともに、支援が必要な場合には、塩田町の基幹型地域包括支援センターがありますので、そちらにお声をお掛けいただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

潮江中学校 菊本百芳 議員：

7番。

岸本陽奈 議長：

潮江中学校 菊本百芳 議員。

潮江中学校 菊本百芳 議員：

はい。

書画カメラお願いします。潮江中学校では、潮江中学校 SDGs の11番「潮江地区を住みやすい街に」の目標のもと、地域のコミュニティづくりのために中学生ができることを、活動の柱にしています。書画カメラ終わります。

昨年度は竹島公園周辺清掃ボランティアを企画し、地域の方と一緒にする活動を企画しました。しかし、平日ということと広報不足のため、大人の参加人数が少なく、目標とする活動にはなりませんでした。

今年度は、生徒会執行部と、地域の方や、高知市社会福祉協議会や、地域コミュニティ推進課の職員の方々と定期的に協議の場を開いて、地域で何ができるのかを検討しています。

そこで、中学生が主体となって、地域の活性化と交流の機会を作り、さらにその活動が今後も続く持続的なものにしていくために、いろいろなイベントを企画し、経験してこられた市の職員の方にお尋ねします。

生徒会が企画する地域との交流する場に、多くの地域の方に参加してもらうには、どのような工夫をすればよいでしょうか。

中城 市民協働部長：

市民協働部長。

岸本陽奈 議長：

中城 市民協働部長。

中城 市民協働部長：

潮江中学校の皆さんには、日頃から、防災をはじめ、地域をより良くする活動にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

本市では、子供たちが自分たちのアイデアで、自分たちの住むまちを魅力的なまちにしようとする活動を応援する、「こうちこどもファンド」という制度がございます。

「こうちこどもファンド」は、子どもたち自身取り組みたい地域活動について、公開審査会でプ

レゼンテーションを行っていただき、こども審査員の審査を経て、助成が決定した団体には、活動に必要な費用として、上限20万円の助成金が交付されるという制度です。

中学生の皆さんが地域活動を行う際に、参考になる取組の一つとして、高知国際中学校の生徒さんが中心となって結成された、「未来をかえ隊」という団体の取組がありますので、同じ思いを持った人を集める方法や、活動を充実させる工夫などをご紹介します。

「未来をかえ隊」の皆さんは、活動当初は団体のメンバーだけで鏡川流域の清掃活動を行っていましたが、地域の皆さまにも自分たちの活動を知ってもらうため、先ほど紹介しました「こうちこどもファンド」の助成金を活用してチラシを作成し地域の方へ配布したり、ゴミの分布パネルを作成して地域のイベントにブースを出展するなどの取組を行ってきました。

こうした取組により、高知大学のボランティアサークルとの交流が生まれ、合同でスポーツごみ拾いのイベントを開催することとなり、地域の小中学校や町内会などを通じて参加を呼び掛けたところ、小学生からお年寄りまで40人近くの方々が集まり、楽しみながら清掃活動が実施できたとの報告をいただいています。

地域活動の輪を広げるとともに、より充実した活動にしていくためには、自分たちの活動を周りの人に知っていただくことや、周りの皆さんの様々なアイデアを吸収していくことも大切なことだと思います。

潮江地域では、町内会や青少年育成協議会、体育会といった様々な地域団体が活発に活動していますし、地域団体や個人の皆さんが協力し合い、さらなる地域活動の活性化を図るため、各小学校区で「潮江南地域連合会」、「潮江小校区連絡協議会」、「潮江東小学校区地域内連携協議会」が設立されています。

多くの地域の方々に自分たちの活動に参加してもらうためには、こうした団体の皆さんに呼びかけることや、潮江地域で開催される様々なイベントに参加し、自分たちの活動を積極的にPRすることも効果的だと考えます。

本市としましても、地域活動に取り組む中学生の皆さんと地域の皆さんをおつなぎできればと考えていますし、「こうちこどもファンド」の活用をご検討いただく際には、全力で応援してまいりますので、ご相談いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

一宮中学校 西山来希 議員：

8番。

岸本陽奈 議長：

一宮中学校 西山来希 議員。

一宮中学校 西山来希 議員：

はい。

高知市の市税で通学路の補修・整備を行うための方法についてお伺いします。

私たち一宮中学校区にある一宮駅前では、通学時間帯に車の通行量が多く、そのうえ近くの小学校や高等学校の通学路になっているため、混雑して通るスペースがないときがよくあります。また、

一宮しなね付近では、街灯がなく夜間は暗く危険だと感じています。このような状況を放置していると、事件や事故が起こる可能性があり、地域の方々や学生たちが安心して生活することができないのではないかと考えました。

もちろん、一人ひとりが注意を払って通行すればよいことですが、注意をしても事件や事故がいつ起こってもおかしくない状況なので、道路工事や私達の取組によって、安心・安全に通行できるような道にならないかと思っています。

私たちは2学期に社会の公民分野で地方自治・財政について学びます。税金によって私たちの生活がより豊かになる仕組みや過程について理解したいと思っていますが、今回このような貴重な機会をいただきましたので、高知市の税金がどのように使われ、道路等の工事が行われるのか教えていただきたいです。

ご回答どうぞよろしくお願いします。

澤村 財務部長：

財務部長。

岸本陽奈 議長：

澤村 財務部長。

澤村 財務部長：

高知市での税金の使われ方について、ご質問をいただきましたが、私たちが暮らすうえで、欠かすことのできない税金の仕組みを学ばれ、使い道に関心を持たれることは、次世代を担う皆さんにとって非常に重要なことであり、市役所の活動を知っていただく良い機会となりますので、少し詳しくなりますが、お答えさせていただきます。

国や地方自治体では、市民や企業から収めていただいた税金を財源に、皆さんの生活に役立つ活動や社会での助け合いのための活動など、様々な取組を行っていますが、そういった活動を「財政」といいます。

この財政の貴重な財源となる税金には、国に収める国税のほか、県や市に収める地方税がありますが、国税では自営業やサラリーマンなどの個人の収入にかかる所得税、企業活動での利益などにかかる法人税、そして皆さんが買い物をした際にかかる消費税など様々な税金があり、令和4年度の国税収入は過去最高の71兆円余りとなりました。

一方、地方税には、個人や法人にかかる個人市民税や法人市民税のほか、土地や建物などにかかる固定資産税などがあり、高知市の市税収入は、令和4年度は457億円余りとなり、一年間の収入の合計である歳入1,654億円余りの約28パーセントを占めています。

市税を含めたこれらの財源がどのようなものに使われているかというご質問ですが、すべてをご紹介するのは難しいので、目的別に金額の大きいものを順次、ご説明させていただきます。

まず、一番多いのが福祉や医療などのサービスで、お年寄りや障がい者の福祉や医療をはじめ、生活に困っている方への生活保護、子育てをしている家庭に対する手当の支給などの経費に813億円余りが使われ、全体のほぼ半分を占めています。

そして次に多いのが、道路や建物などの建設事業の財源などとして借り入れた借金の返済が163億円余りで、約10%。

次いで、妊婦や子供の健康診断やワクチン接種、高知医療センターの運営など皆さんの健康を守る経費、そしてゴミやし尿を収集し処理するための衛生に使う経費が140億円余りで約9パーセント。

次いで、小・中学校の校舎を管理する費用や、皆さんが使うパソコンなどの備品、外国語指導助手（ALT）などの学校教育に必要な経費、市民の文化・スポーツの振興、オーテピア高知図書館の運営などのための経費が139億円余りで約9パーセント。

次いで、道路や公園、市営住宅の整備、区画整理の実施などの経費が138億円余りで約8パーセントとなり、ご紹介した以外にも、税金を集める仕事や戸籍の事務など、市役所の全般的な仕事に関する経費や、そして消防活動の経費などにも税金が使われています。

市役所では、このように税金などを財源としまして、市民の皆様の生活に必要な多くの事業を行っていますが、市税などの収入や貯金には限りがあり、行政が行う事業でも家計のやりくりと同様に、収入や貯金の範囲内で取捨選択していくことが必要になりますので、翌年度の予算を決める査定作業の中で、費用対効果を踏まえ、優先順位を付けながら、どの事業に予算を配分するかを決めています。

ご質問の通学路整備につきましても、ご要望すべてにお応えすることはできていませんが、毎年春頃に、教育委員会、学校、道路管理者、警察などで合同点検を行いまして、グリーンベルトやガードレールの設置工事などを順次実施しており、安全対策に努めているところですが、今回、ご質問をいただきました一宮駅前やしなね付近の通学路については、高知県が管理する県道や高知市が管理する市道がありますので、ご要望の内容について速やかに協議を進めてまいります。

ご質問をいただきました税金につきましては、その使い道について市民の皆様に広くご理解をいただくことが必要であり、今後も広報誌やホームページなどで情報を発信してまいりますので、皆さんにおかれましても、今回のご質問や学校の授業などを通じて、税金の使い道について、さらに学習を深めていただきたいと思います。

青柳中学校 谷山廉 議員：

9番。

岸本陽奈 議長：

青柳中学校 谷山廉 議員。

青柳中学校 谷山廉 議員：

はい。

高齢者の方々と中学生の関わりを増やすための機会について

私は生徒会活動を行う中で、高齢者との交流が少ないと感じています。

私達生徒会は、地域の絶海池の清掃や、濱口雄幸生家記念館のボランティア清掃などを地域の方と定期的に行い、地域貢献に取り組んでいます。しかし、交流をすることが目的ではないため、清掃活動中も中学生、地域の方と分かれて行うことが多いです。

何かきっかけがあれば、交流することができると思うのですが、どのような方法がよいか分かりません。

高知市主催で高齢者と中学生が交流できる場があれば、参加させていただき、高齢者の方たちと関わる方法を考えたいと思っています。

また、高齢者に対してどのようなボランティア活動を行えばよいかこの場でアイデアをいただければ、青柳中学校で実践したいと思います。

高齢者と交流することは、地域や高知市の歴史を知ることにもつながるので、活動の後、そういった活動で得た情報などを生徒会だよりに記載し、全校生徒につたえることで、とても有意義なものになると考えています。

新たな活動にチャレンジすることで、私達も成長したいと思いますので、よろしくお願いします。

橋本 健康福祉部長：

健康福祉部長。

岸本陽奈 議長：

橋本 健康福祉部長。

橋本 健康福祉部長：

青柳中学校生徒会の皆さんが地域で清掃のボランティア活動をなさっていることにつきまして、大変素晴らしい地域貢献活動であり、是非、この素晴らしい体験を後輩の生徒の皆さんにも伝えていただき、これからもこうした活動が続いていくことを期待します。

さて、ご質問の中学生と高齢者の方が交流できる場については、本市の各地域において既に様々な活動が行われており、広がりを見せております。

例えば、三里中学校では、生徒会の皆様が、夏休みと冬休みにゴミ出しが難しい高齢者の方などのお宅を訪問し、本人の代わりに不燃物をステーションに持っていくゴミ出しボランティアを大人のボランティアと一緒に取り組んでおります。

また、交流の場としては、高齢者の方々が集まって交流や活動を行いますサロンやいきいき百歳体操会場における交流、介護保険事業所との交流、学校行事や地域のお祭りなどでの交流など、それぞれの地域ごとに様々な交流の場があります。

高知市としましては、中学生と高齢者に限らず、様々な世代の方が交流し、つながることは、お互いにとってとても有意義なことだと考えており、地域の個別のニーズに合わせて、交流の場を作りたいと考えている方や何か活動をしてみたいと考えている方から地域共生社会推進課に相談があれば支援を行っていききたいと考えています。

今回、谷山議員から「交流の場がほしい」とご質問いただいたことは本当にありがたく、嬉しく思っております。

谷山議員の意見もお伺いしながら「どんな交流の場にするのか」について一緒に考えていきたいと思っておりますので、是非、よろしくお願いします。

城西中学校 吉村愛美 議員：

10番。

岸本陽奈 議長：

城西中学校 吉村愛美 議員。

城西中学校 吉村愛美 議員：

はい。

城西中学校の吉村愛美です。高知に来てくれる観光客を増やすための取組についてお伺いします。

4年ほど前から日本では新型コロナウイルスが流行し始め、宿泊施設や飲食店などの休業や営業時間の短縮などの対策が行われました。また、よさこい祭りなどのイベントの中止や延期が相次ぎ、多くの方が旅行や観光を控えなければならず、高知を訪れる観光客も減少してしまいました。

しかし最近では、新型コロナウイルスが第5類に移行されたことで、外出の制限がなくなり、マスク着用も解除され、気軽に県外に旅行や観光に行けるようになりました。また今話題になっているNHK連続ドラマ小説の「らんまん」の影響で、牧野植物園には多くの方が訪れていると聞いています。

そこで私はドラマをきっかけに高知に来てくれた人たちに「また高知に行きたい」と思ってもらい、そしてもっと高知を盛り上げたいと思いました。高知市では、県外の人に高知の魅力を知ってもらうために、どのような取組をされているのか教えていただきたいです。

また、城西中学校では、近年、新型コロナウイルスの影響で、地域の人たちと関わる機会が減っているため、私たち生徒会執行部と、升形商店街との協働で祭りを開催する予定です。地域の人に祭りに来てもらえるように、私たちなりにPRの方法を工夫したいと思っています。

高知市に多くの観光客の方々に来ていただくために、私たちにできることは微々たるものですが、高知市の取組においても、何かお役に立てる取組があれば、やってみたいと思います。

岡崎 市長：

市長。

岸本陽奈 議長：

岡崎 市長。

岡崎 市長：

ありがとうございます。ご質問のように、吉村議員さんのような若い世代の方々が、高知市の観光行政に興味を持たれて、高知を盛り上げる方法をもっとないのかと、自分たちで考えていただいていることに我々も感謝申し上げたいと思います。

さて、吉村議員さんが言われたとおり、本年に入りまして、NHKの連続テレビ小説「らんまん」が非常に好調でございます。この報道をはじめ高知県を訪れる観光客も増えてきておりまして、高知市の旅館ホテル協同組合の調査では、今年の4月から6月までの平均の宿泊者数ですけれども、コロナ前の水準をすでに上回っておりまして、コロナ禍で大きなダメージを受けました旅館・ホテル・飲食業、交通業など、関連の観光関連産業にも、明るい兆しが見えてきております。

今、牧野富太郎博士がモデルとなりました「らんまん」が佳境に入っておりますので、高知県の観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」を開催し、草花をテーマとしました観光地づくりや、博覧会を盛り上げるイベントの企画、また県内の周遊のキャンペーンの実施など、テレビ、雑誌、また飛行機や大型客船等の企業とタイアップした観光PRなど、県・市そして県下の市町村と共にオール高知で観光客の誘致に取り組んでいるところです。

高知市も、高知を代表する景勝地は高知城と桂浜がありますけれども、特に高知市の桂浜につきま

しては、今年の3月に40年ぶりにリニューアルをいたしまして、桂浜公園が大変多くのお客様を迎えておりますので、我々も大変感謝をしているところです。この観光博覧会ですけれども、観光客を他の県内の観光スポットに誘導しますインフォメーション機能を、この桂浜でも担っております。また桂浜の園内の散策路や展望デッキの整備、また観光ガイドと公園内を巡ります「桂浜の散策コース」、それと今、桂浜水族館がSNSで人気No.1ということになっておりますので、桂浜水族館のSNSの様々な情報発信にも感謝をしております。

今回の「らんまん」のように、高知市に来ていただくきっかけを作り出すために、様々なPR、また県外に出て観光客の誘客が非常に重要になっています。

昨年度は、「感！高知」というキャッチフレーズで、これまで高知市への来訪がまだまだ少なかった首都圏の20～30代の女性をターゲットにしたプロモーションに取り組んでおります。

昨年12月から2月にかけて、主に首都圏でポスターや動画、デジタルの広告、SNSを活用しましたキャンペーン、また東京駅でのイベントなどを組み合わせた効果的な情報発信によりまして、高知の観光を幅広く拡大を図りました。

スマートフォンの位置情報で一定、人々の状況が把握できる観光地の人出などのデータを収集する「おでかけウォッチャー」によりまして、今年2月の高知市の来訪者数が、首都圏の20代の女性で前年比320%超え、そして30代の女性で250%超えとなっておりますので、一定首都圏のプロモーションの効果は非常にあったと考えているところです。

近年のSNSユーザーの拡大を受けまして、高知市でも様々なイベント情報をニュースタで発信をしておりますが、より効果的に拡散させる要素としましては、「体験をすることを共感」をしていただくこともポイントの一つだと考えております。

一定ポスター等の紙の媒体では限度がありますので、それぞれネット上での誘客の獲得も今後とも広げていきたいと思っております。皆様方が、それぞれイベントの準備の中で感じた様々な感動や再発見をしました地元の魅力など、学校のホームページやマスコミの取材などによりまして発信をし、全体としての高知からの情報発信につながれば我々も幸いです。

城西中学校の皆様が、地域の方々とのつながりを大切にしようとして、升形商店街と協働して祭りを開催したいということも聞いておりますが、本市の新たな魅力発見にもつながっていくかと思っておりますので、ぜひ本市の観光インスタグラムでも紹介させていただければと思っております。この升形商店街との共同した祭りも、協議が進んでいると聞いておりますので、お祭りが成功すること、また地域の方々との交流が、学校の関係者の皆様方と有意義な経験、そして新たな人々とのつながりになることをご祈念いたしまして、私からの回答とさせていただきます。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

三里中学校 長尾朔太郎 議員：

11番。

岸本陽奈 議長：

三里中学校 長尾朔太郎 議員。

三里中学校 長尾朔太郎 議員：

はい。

三里中学校の長尾朔太郎です。南海トラフ巨大地震への対策についてお伺いします。

現在、日本では南海トラフ巨大地震が今後30年以内に70～80%の確率で起こるとされています。私たちの生活する高知市では震度6弱を超え、その揺れが3分以上続く可能性があると言われています。私達が通う三里中学校は海のすぐ側にあり、その反対側には山があります。

書画カメラをお願いします。この写真は三里中学校周辺の地震・津波のハザードマップです。こちらを見ると、三里中学校周辺の震度は7と表示されています。津波の方は、3～5m未満とされています。この2つの資料から三里中学校周辺は地震・津波の両方の被害が大きくなるのではないかとということがわかります。書画カメラ終わります。

また、三里地区は高齢化率が非常に高くご高齢の方もたくさん生活しています。古い建物も多いため揺れが来たときの津波や土砂災害、建築物の崩壊などによる被害も心配になりました。地震がくるまでに自分たちができる対策や、実際に地震が来たときの対策としてどのような取組をすればよいでしょうか。

対策について知ることで地震が来たときの避難行動や地域の方との連携もスムーズに行えると考えています。よろしくをお願いします。

山崎 防災対策部長：

防災対策部長。

岸本陽奈 議長：

山崎 防災対策部長。

山崎 防災対策部長：

ご質問ありがとうございます。これからの地域を担う若い皆さんが、近い将来に発生が予測されている南海トラフ巨大地震に対し、住んでいる地域のことを学び、できる対策を考えるということは、大変ありがたいことであり、また心強く感じております。

地震発生までにできる対策については、第一に、「逃げ道と逃げ場所」、つまり避難経路と緊急避難場所を知り、避難する経路や時間を確認しておくことです。

三里地区は沿岸部であり、津波の到達時間が30分程度と予測されていますので、高台や津波避難タワーなどの緊急避難場所を確認し、そこへ向かう避難経路や避難にかかる時間も確認していただきたいと思います。

避難経路は、老朽化した建物やブロック塀などが倒壊している場合も考えられますので、複数の経路を確認しておくことで、避難の実効性が高まります。

第二に、避難した後を想定し、ご家庭で非常持ち出し袋の準備をお願いします。高台や津波避難タワーに避難後は、津波警報が解除されるまで、ご自宅に戻ることができず、長時間、屋外で過ごすこととなりますので、食料や飲み物だけでなく、携帯電話やバッテリー、寒い時期には厚手の上着など、ご家庭で必要な物について話し合い、すぐに持ち出せるよう非常持ち出し袋の準備をお願いします。

第三に、地域の皆さまとの関係づくりです。日常生活の中で、挨拶や地域行事への参加など、地域

の皆さまとコミュニケーションを深めることで、幅広い年代の方と楽しく充実した時間を過ごしながら、地域の防災力を高めることができ、災害時に大きな力を発揮します。

次に、地震が発生した時の対策では、まずはご自身の安全の確保です。南海トラフ巨大地震の場合、長ければ3分程度の揺れが続きますので、姿勢を低く、頭を守り、安全な場所から動かないという安全確保姿勢をとっていただき、落下物などに気を付けながら、身の安全を確保してください。

その後、揺れが収まりましたら、先ほどの事前の対策を活かして、できるだけ早く、ご家族や地域の皆さまと緊急避難場所への避難をお願いしたいと思います。

南海トラフ巨大地震は、ご質問にもありましたが、今後30年以内で70%から80%、40年以内では90%程度の高い確率で発生すると予測されています。

南海トラフ巨大地震などの災害に備えて、地域の防災力を向上させるためには、皆さんのような若い力が必要不可欠となりますので、今後も、日常生活や学校生活のなかで、ご家族やご友人と防災について考えていただくとともに、ぜひ地域の自主防災組織などで行っている防災活動にも積極的に参加していただき、これからの地域防災の新たな担い手となっていただけることを期待しております。

岸本陽奈 議長：

この際、約15分間休憩いたします。14時30分より会議を再開します。

【 休 憩 】

近澤奏南 副議長：

それでは、休憩前に引き続き、会議を開きます。議長を交替しました。ここからは、潮江中学校、近澤奏南が議事を進行します。よろしくお願いいたします。

南海中学校 安岡陽希 議員：

12番。

近澤奏南 副議長：

南海中学校 安岡陽希 議員。

南海中学校 安岡陽希 議員：

はい。

机や椅子の脚部分の改良について。

高知市の多くの学校では、生徒用の机や椅子に使わなくなった硬式テニスボールをつけて、騒音を軽減したり、机の移動をスムーズにしたりする取組を続けています。大きな音に敏感な生徒もいて、一日に約30回程度机を移動させるため、その時に起こる大きな音はとても苦痛に感じるそうですが、このことはその生徒だけではなく、全ての生徒にあてはまることだと思います。

書画カメラお願いします。2023年4月5日の高知新聞朝刊でも掲載されていたように、高知市の39校の小学校に確認したところ、34校がテニスボールをつけているとのこと、中学校でも多くの学校がつけています。書画カメラ終わります。

廃テニスボールを使うことはとてもいいと思いますが、廃テニスボールは生徒一人につき8個必要で、カッターを使つての加工には危険を伴うとも聞いています。しかも、使い続けると裂けて切れ目が広がり、机や椅子の脚から外れやすくなるため交換が必要になります。また、テニスボールに使われる溶剤等による健康被害の可能性が指摘されたり、ほこりがテニスボールに付着したりして掃除のたびに不衛生なのでほこりをとっている状況があります。また、班学習にしたときに、テニスボールどうしがあたって、きちんと机がつかないことも気になります。

そこで、今後の机や椅子の購入の際は、テニスボールをつけなくても静かで移動しやすいユニバーサルデザインの製品を取り入れたものを選んでいただけないでしょうか。そのような机や椅子がまだ開発されていないようであれば、その必要性を強く業者の方に伝え、日本全国全ての学校の学習環境の向上を図ってほしいと考え、提案いたします。開発に時間がかかり、すぐに対応できないようであれば、脚の下部にフェルトが貼られた机・椅子や脚の先につけられるカバー製品で長く使えるものを学校に整備してほしいです。よろしく申し上げます。

松下 教育長：
教育長。

近澤 副議長：
松下教育長。

松下教育長：

南海中学校の生徒の皆さんが、大きな音の軽減や机の移動をスムーズにする取組を自ら行い、学校の学習環境の向上について問題意識を持ってくださっていること、とてもうれしく感じております。

各学校へ訪問をさせていただく度に、机と椅子にはめ込まれているテニスボールの価値を再認識させていただいているのですが、特に、授業の途中で、生徒同士の意見を交換する場面での「スムーズな机と椅子の移動」が、学習環境の向上につながっていると感じており、本件にかかり、ご協力をいただいている全ての皆様に感謝をしておるところです。

「他者を思いやる」という発想から生まれた、現在の「テニスボールでの音対策」でございしますが、今年の4月に、先程ご紹介のありました地元新聞に「テニスボールで足元静か」の記事が掲載され、児童・生徒の人数分確保に「高知県テニス協会などが協力してくれていること」が紹介された影響からか、教育委員会に個人の方から「テニスボール約200個」の寄付もいただいているところでした。

質問議員さんのご提案を受け、教育委員会では業者の協力も得ながら、学校の授業で使用することを前提とした「静かで移動しやすいユニバーサルデザインの机・椅子」を調べてみましたが、そのような製品を確認することができませんでした。

また、机や椅子の脚先をカバーする製品で、「消音に特化した製品」も確認することができませんでしたので、業者には「学校現場ではこのようなニーズがある」ということをお伝えしております。

なお、消音に「一定の効果がありそう」と考えられる製品を調べましたところ、「本市の児童・生徒の皆さんが使用する机や椅子の全てに用意する」となると、約4,400万円の費用がかかることが分かりました。

教育委員会としましては、大きな音への苦痛をやわらげ、全ての児童・生徒の皆さんにとって、快

適な学習環境にするために、何らかの音対策が必要であると考えております。

しかしながら、財政状況が大変厳しく、「要望のあった全ての市民サービス」を提供することが難しい状況にあるため、教育委員会としましては、限られた予算の中で、各学校の校舎などにおける「危険箇所の改善」を優先して行うとともに、トイレの洋式化・乾式化の改修工事や、照明のLED化などを実施し、児童・生徒の皆さんの「安心・安全な学習環境の確保のための対策」を講じているところであります。

現時点で、机や椅子の脚先をカバーする製品の購入は、費用面で難しいと教育委員会では考えており、現在の「テニスボールでの音対策」の取組を、当面は継続していただければと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

西部中学校 松尾菜友 議員：

13番。

近澤奏南 副議長：

西部中学校 松尾菜友 議員。

西部中学校 松尾菜友 議員：

はい。

未就学児がいる家庭で使用できるチケット制度について。

西部中学校の松尾菜友です。私は、未就学児がいる家庭で使用できるチケットの制度について提案させていただきます。

現在、高知市では少子化が進んでいます。その理由として、女性の社会進出で共働きの増加が見られ育児をする時間が取れない、育児に関する費用がかかることが考えられます。

こちらの資料をごらんください。

書画カメラをお願いします。

こちらの資料からは、0歳児では約50万円の子育て費用がかかり、5歳児は0歳児よりも約15万円多くかかることが分かります。

書画カメラ終わります。

この制度の仕組みとしては、チケットは年齢ごとに定期的に送られ、アプリで高知市に申し込みができます。例えば、チケットの使用回数は決まっていますが育児に必要なミルクや衣類、生活用品などに交換することができます。利用者は子育ての都合に合わせて届ける時間を選択出来る制度です。また、郵送や指定された商業施設などで申請できる方法も考えました。

私たちの学校生活でもそうであるように、定期的に情報を知ることができることと今後の予定を立てることができ安心すること、時間を選択できると学級・部活・生徒会での必要な用事を済ませ自分が都合よく効率よく動くことができるからです。これは、子育てでも似ていると感じました。

高知市が定期的に送る利点は、申請できる内容が少しずつ変化することで特に初めて子育てする家庭にとって「今の成長段階では離乳食がいつ終わるか」など把握ができること、利用者の申請内容で各家庭の子供の成長段階を高知市が把握できるからです。

また、アプリで子育てに関する情報を定期的に配信し、また、子育ての悩みを保健師や市の職員に

相談できると安心することができると思えました。

また、チケットを利用した感想やアンケート調査をすることで、次の子育て世代に対しての還元ができるのではないのでしょうか。

誰もが高知市で子育てをしたいと思う未来につながると思いますので、検討していただきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

中澤 副市長：

副市長。

近澤奏南 副議長：

中澤 副市長。

中澤 副市長：

少子化の問題は、高知市が人口減少問題を克服するために策定しております高知市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標の一つに、若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現することを掲げ取組を進めるなど、本市にとりまして大変重要な課題です。

松尾議員さんからは、未就学児のいるご家庭で使用できるチケット制度についてご提案をいただきました。ありがとうございます。

ご提案いただきました内容は、アプリを使って定期的に就学前の子どもさんの年齢に応じたチケットを高知市から送付して、各ご家庭で育児や子育てに必要なアイテムを選択すれば、都合の良いときに商品が届けられるというものです。

同時に、本市にとりましては、各ご家庭の子供の成長を定期的に把握でき、またアンケートなどによって、より効果的な子育て家庭等への支援の仕組づくりに繋げることができるといった、大変優れたご提案です。

高知市では、今年2月から妊娠届を提出された時と出産後の2回に分けてそれぞれ5万円、合計10万円を支給する「出産・子育て応援給付金事業」を開始していますが、高知県では現在、現金給付を電子クーポンに替えて支給する検討を行っており、本市も参画を考えているところですので、松尾議員さんのご提案も参考に検討を進めたいと思います。

高知市のアプリを使った子育て家庭等への支援については、今年度、「母子健康手帳アプリ」を導入し、予防接種のご案内や、現在実施している、「パパママ教室」・「育児相談」・「離乳食教室」・「双子・三つ子の家庭への支援事業」・「産後の母親の心身のケアを行う事業」などのタイムリーな情報提供を行っていきます。

今後も、妊娠期からの切れ目のない子ども・子育て支援の充実を図るため、関係する皆様のご意見をお聞きしながら、子育て家庭等への支援を更に充実し、誰もが高知市で子育てをしたいと思えるまちづくりに取り組んでまいります。

介良中学校 中島寛太 議員：

14番。

近澤奏南 副議長：

介良中学校 中島寛太 議員。

介良中学校 中島寛太 議員：

はい。

健康な体作りができる公園などの施設について。

私達の住む介良地区には、小さな子供から高齢者の方々が利用できる身近で小さな公園があります。介良地区にある公園は、中学生の私たちにとっても愛着のある大切な居場所です。

しかし、体力づくりや、地域の方々との憩いの場として利用できる公園は少ないように感じています。

特に、近くの公園はボール遊びができないので、ボール遊びができる公園がもっとあればと思います。弥右衛門公園のような大きな公園が身近な場所にも欲しいです。

公園の多くは、小さい子供たちが安全に遊ぶことを目的として作られていると思うので、中学生の私たちがボール遊び等をしてはいけないことはわかります。

ですが、県外の公園には、ボールで遊べるエリアを作ったり、トレーニングができる器具を設置したりするなど、施設内の工夫によって、異なる年齢層の方が利用できる場になっています。

そういった施設内での工夫により、目的に応じて多くの世代と一緒に遊べるようになることは、私たちの地域にある公園でも可能でしょうか。年々スマホ依存者が増加している傾向があるので、健康な体づくりのためにも、ぜひ検討していただきたいです。

福留 都市建設部長：

都市建設部長。

近澤奏南 副議長：

福留 都市建設部長。

福留 都市建設部長：

公園に関するご質問をいただきましたのでお答えいたします。

介良中学校の生徒の皆さんが、小さな子供から高齢者の方々が利用できる身近な場所として公園に愛着を持ち、大切にいただいていることを大変うれしく思います。

現在、介良中学校の校区内には約30ヶ所の公園や児童遊園があります。私も先日どのような公園があるのか、現地を見てきましたが、小さな公園が多く、中学生の皆さんがボール遊びをできる広さのある公園は少ないと感じました。

そういった公園の中でも、介良中野団地にあります「中野五号児童遊園」、潮見台にあります「潮見台公園」や、公園ではありませんが、介良ふれあいセンター東隣の「愛善保育園隣接広場」などは高いフェンスで囲まれていることから、周囲に迷惑がかからないよう注意していただければ、中学生の皆さんがボールで遊ぶこともできる公園となっています。

ご質問にもありました「弥右衛門公園」は、お祭りなどイベントができる広い広場や色々な遊具を設置し、様々な人が一緒に利用できる公園として整備しており、本校区内におきましても中野団地西

側の介良川沿いに「弥右衛門公園」と同じような公園に位置づけた「介良公園」を計画しておりますが、土地の取得など様々な課題があることから整備までには相当の期間が必要と考えています。

先ほどお答えしましたように、本校区では小さな公園が多いことから、一つの公園で多くの世代の方が一緒になって遊べるような公園整備は難しいと考えますが、現在の公園の遊具などが古くなり取り替えが必要になった時には、公園を利用する方のお話をお聞きし、たとえば、小さな子供が遊べる遊具を設置した公園や、トレーニングができる器具を設置した公園など、それぞれの目的にあった特色のある公園整備を行うことはできると考えております。

公園は市民の皆様の憩いの場であると同時に、ボール遊びなどを通して健康な体づくりを行うことができる貴重な場所であると考えておりますので、引き続き地域の皆様のニーズに合った公園整備を進めてまいります。

大津中学校 谷本杏慈 議員：

15番。

近澤奏南 副議長：

大津中学校 谷本杏慈 議員。

大津中学校 谷本杏慈 議員：

はい。

大津中学校の谷本杏慈です。街灯を設置するために今できる取組について質問させていただきます。大津中学校では現在アルミ缶回収を行っています。その理由は3つあり、地域との関わりを増やし地域貢献するため、リサイクルについて自ら貢献できるようになるため、資源の有効活用をするためです。このアルミ缶回収で得た収益金は、老人ホームに杖や車いすを寄付したり、被災地に寄付したり、最近では地域の保育園に本などを寄付したりしています。令和4年度4月～3月の収益金は10万7250円、令和4年度の収益金の余りは7万7850円でした。

本年度6月に行われた生徒総会でもアルミ缶回収で得た収益金をどのように使っているのか、という質問もあり、その際には上記のことに加え、生徒全員に他に地域のためにどのような貢献ができるのか考えてほしい、ということをお伝えしました。

その結果、大津地区には街灯が少なく、夕方以降になると暗い道も増え危険である、という意見がありました。私も部活動などで遅くなった時などは、自転車のライトをつけていても道が暗く危ないと感じることがあり、できれば街灯を設置したいと考えています。

アルミ缶回収で得た収益金を使って街灯を設置するために、なにか条件などありましたら教えてください。また、環境に配慮した自然エネルギーを活用した街灯の設置も考えていますので、その点についても教えてください。ご回答、よろしくお願いいたします。

高岡 環境部長：

環境部長。

近澤奏南 副議長：
高岡 環境部長。

高岡 環境部長：

環境行政に関しますご質問をいただきありがとうございます。大津中学校の皆様には日頃から生徒総会等におきまして、生徒全員で地域貢献について真剣に考え、これまで様々な活動を展開されておりますことに、心から敬意を表すところでございます。

また、ご質問にございました資源のリサイクルと有効活用の一環として実施しております、アルミ缶の自主回収事業につきましては、先輩から後輩へ20年以上の長きにわたり、引き継がれてこられた地域貢献活動であり、これまでに福祉施設や公民館等に車いすや簡易テント、近年は大津小学校児童クラブや保育園等へ絵本を寄贈するなど、本市の目指しております「高知市型地域共生社会」の実現に向けての観点からも、素晴らしい取組であると考えております。

それでは、谷本議員からいただきましたアルミ缶回収による収益を活用した、通学路への防犯街路灯の設置に関するご質問について、お答えをいたします。

はじめに、街路灯設置の条件についてのお尋ねがございました。学校周辺の通学路をはじめ、本市が管理をし、市道を中心に、設置をしております街路灯は、約21,000灯ございますが、これらは各地域の町内会等の皆様によって設置をされておきまして、設置をする場合は、まずは、町内会等の皆様に具体的な設置場所をご相談いただくなど、手続きが必要となっております。

次に、環境に配慮した自然エネルギー等を活用した街路灯についてのお尋ねがございました。現在、街路灯として最も一般的なのが、従前の蛍光灯からLED照明に器具を交換、または新設した街路灯でございます。

現在、約21,000灯のうち、約15,000灯がLED照明による街路灯となっております。LED照明のメリットとしましては、使用電力が少なく、環境負荷の低減につながることで、これまでの蛍光灯よりも明るく照らすことにより、防犯効果が高まること、電球の使用期間も長く、電球交換などの手間の省力化も期待できることなどが考えられております。

ご質問の環境への配慮や自然エネルギーを活用した街路灯としましては、太陽光パネルを備えたLED照明のほか、風力発電と太陽光パネルを併用したハイブリッド街路灯などがございますが、こうした自然エネルギーを活用し、これまで以上に使用電力量の少ないLEDを選択しようと検討されております大津中学校の皆さんのお考えは、温暖化対策として、地球規模で加速しております「脱炭素社会」の実現に向け、小さなことかもしれませんが、私たち一人ひとりが実行できる大変意義のある取組につながるものと期待をしております。

今回ご提案いただいた、アルミ缶回収で得ました収益を原資にし、通学路に街路灯を設置し、地域を安全で明るくする取組につきましては、設置場所等について町内会の皆様へ、ご相談いただくこととなりますが、環境部としましては、低炭素社会の実現や、環境の学習の観点から大津中学校の取組につきまして、様々なご相談をいただきながら、今後サポートさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

旭中学校 中石大我 議員：
16番。

近澤奏南 副議長：

旭中学校 中石大我 議員。

旭中学校 中石大我 議員：

はい。

旭中学校の中石大我です。高知県全体の人口減少に関する高知市の対策について質問します。

日本の少子高齢化が進む中、高知県も同様に人口の減少が続いています。人口が減少することで廃校になる学校がでてきたり、子供に不利益になることが増えてくるのではないかと考えています。

実際、旭中学校では、生徒数が減少傾向にあるので、今後具体的な対策がなされず、地域の人口が減ると十分な教育や指導が受けられない状況が生まれるのではないかと考えています。

また、人口が減ることで将来的に高知市の財政が厳しくなることが考えられます。財政が厳しくなればいろいろな保障や政策を行う難しさが生まれると思うので、高知市の将来がどのようになっているのか不安があります。

高知市が、現段階で人口減少に歯止めをかけるために行われている対策などがあれば、教えていただきたいです。ご回答よろしく申し上げます。

岡崎 市長：

市長。

近澤奏南 副議長：

岡崎 市長。

岡崎 市長：

人口減少問題に、関心をもってくださいまして、ありがとうございます。

まず、現在の高知県全体の人口減少の状況を申し上げます。今年の7月1日時点の推計人口は67万人をすでに切っており、66万8,000人となっております、1年前と比較しますと約9,000人以上の人口が減少しているという状況となっております。

例えばこれは、1年間で9,000人ということは2年で18,000人の減少ということになりますので、もう少し具体的に言いますと、宿毛市の人口が約18,000人、須崎市が約19,500人ですので、いかにこの1年間で9,000人の人口減というのが、いかに影響が大きいことと深刻さがわかると考えます。

高知市ですけれども、今年3月で推計人口が32万人を切っておりまして、高知市でも約1年間で約3,000人を超える人口が減少してきておりまして、我々も非常に危機感を持っております。

また、子供の生まれた出生数ですけれども、大変減っておりまして、出生数が全国で一番少なくなったというデータがでましたので、濱田知事も非常に危機感を持っているところです。新型コロナウイルス感染症の影響もあって、約10年早くそのペースが進んでいる状況です。

高知県では、昨年1年間に生まれた子供さんの数ですけれども、3,721人の子供さんが生まれておりますが、これは全国47都道府県の中で最も少ない数字となりまして、非常に深刻な数字であることを改めて感じたところでございます。

また毎年、進学や就職によりまして、特に若い世代の方々が高知市から県外に転出されていると

いう状況もありまして、高知市で見ますと、大学の進学も絡んできますけれども、15歳から24歳の男女の若者の県外への転出を、転入と比べますと、県外へ出ていかれる方の方が約800人多いということです。高知市においても約800人くらい減ってきているという状況ということになります。

高知市ではこのまま人口が減少していくことの対策としまして、それぞれ2060年におきましても高知市の人口については、28万人を維持したいと考えておりまして、様々な対策をとっているところではあります。

「若い世代」や「UIJターン」、また「結婚・出産・子育ての支援」「交流」「郷土愛」などをキーワードとしまして、「地元への定着」と「移住の促進」を主な方向性を定めて、取り組んでいるところでございます。

それぞれ「地元定着」の視点におきましては、皆さま方もお聞きになられたことはあろうかと思いますが、地元・地域の愛着を深めていただくことで、「こうちこどもファンド」をそれぞれの地域において実施をしているところでございます。それぞれ皆様方、地域の愛着を感じていただきながら県外の大学に行かれても、大学卒業後には地元に戻ってきたいと思っただくということが大事ですので、一つの政策として「こうちこどもファンド」も非常に力を入れて行っているところです。もう一つは移住ですけれども、県外からの移住はここ数年増えてきておりまして、コロナ禍の中でも移住はかなり増えてきておりまして、令和4年度の高知県への移住は、県外から1,700人くらいが県外から移住されてきております。そのうちの約三分の一程度ですが、350組弱が高知市への移住ということですので、県内の移住全体の約三分の一が高知市へ移住をしていただいているという状況でございます。

それぞれ移住の促進も含めて、できるだけ地域に残っていただくきっかけづくりを多くとらなければなりませんので、まだまだ難しい課題はございますが、「高知に住み続けたい」「高知に戻ってきたい」というそれぞれのニーズを今後とも大切にしていきたいと思っておりますので、魅力ある高知市の実現に向けまして、引き続き取組を進めてまいりたいと考えております。

また、こどもファンドも通じながら、当事者である子供さんのニーズを調査をしていきたいと考えています。またどうかよろしくお願ひ申し上げます。

横浜中学校 安岡佑太 議員：

17番。

近澤奏南 副議長：

横浜中学校 安岡佑太 議員。

横浜中学校 安岡佑太 議員：

はい。

横浜中学校の安岡佑太です。ヘルメットの補助制度の充実についてお尋ねします。

この意見は、執行部会で最近、自転車による事故が多く発生しているので話し合いをしたときに、執行部の一人が2年生でヘルメットを買おうとしたときに、補助制度が使えなかったという意見が出たことがきっかけです。

横浜中は7年前、自転車事故にあった生徒が入学してきました。事故にあった生徒は、いつもはへ

ヘルメットをかぶっているのにその時だけはヘルメットをかぶっていなかったそうです。その生徒の入学がきっかけとなり、ヘルメット着用の機運が高まりました。生徒会でもヘルメット着用のアンケートを取るなどヘルメット着用の重要性を訴えて、「かぶるのが当たり前になるように」ということを現在も引きついで取り組みを続けています。2018年度のこうち志議会では、横浜中の代表がヘルメットの補助について訴えて、その時は「補助はできない」という回答でしたが、翌年の2019年度に補助制度ができてヘルメット購入時に2,000円が補助されるようになりました。このことは、横浜中の生徒会で引き継いで全校生徒に知ってもらっています。

ただし現状では、中学校在籍中に一回補助を受けると、買い替えるときに補助が受けられません。そのため、ヘルメットが壊れたとしても、ヘルメットを購入しないという人が出てくる可能性があります。ヘルメットの着用率を上げ、死亡率を下げるためにも、ヘルメットの補助が受けられるとよいと私は考えます。

また、この補助制度は、中学校入学後でなければ使えません。中学校入学前に補助制度が受けられるようになると、ヘルメットが準備しやすくなって着用率も上がると思います。愛媛県では、県立高校の生徒3万人にヘルメットを無料配付したと聞いています。高知市でも配付されることが一番よいと思いますが、ヘルメットの補助制度が受けられる回数を増やすことや、中学校入学前も補助が受けられるようになるとよいのではないかと思います。ヘルメット着用促進の観点から、補助制度の充実はできるでしょうか。制度の充実に向けた対策を教えてください。

松下 教育長：

教育長。

近澤奏南 副議長：

松下 教育長。

松下 教育長：

横浜中学校の生徒の皆さんが、ヘルメット着用の重要性を感じてくださり、「かぶるのが当たり前になるように」と、現在も引き継いで取組を続けてくださっていることをとてもうれしく思います。

高知県が平成31年4月1日に「高知県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を施行したことと同時に、自転車通学をしている県内の小中高校生に対し、ヘルメット購入補助制度がある市町村へ1人当たり定額1,000円の補助を行う制度を創設したことに合わせ、高知市では高知市立学校へ自転車通学する児童生徒のヘルメット着用の推進を図るため、「高知市立学校児童生徒通学用ヘルメット購入費助成金交付要綱」を制定し、助成の対象を原則1回とする定額2,000円の助成事業を開始いたしました。

本助成事業は当初、令和3年度までの期限がある事業でしたが、県の補助制度が3年間延長されたことに伴い、本市におきましては、令和4年度に「自転車用ヘルメットクラウドファンディング」を実施し、22名の方からご寄附をいただきました85万2,000円を財源として、助成事業を継続しているところでありますが、令和4年度は167名、令和5年度は7月31日時点で137名がヘルメットを購入し、その購入に対する助成及び販売協力店への委託料を支出し、ヘルメット購入補助制度の財源残高は24万7,367円となっております。

「ヘルメットを買い替える時に再度補助の申請ができないか」とのご質問ですが、教育委員会としましては、横浜中学校の生徒の皆さんの素晴らしい取組などを契機として始まったこの助成事業が1人でも多くの児童生徒のヘルメットを着用するきっかけとなるよう、この限られた財源をまだ着用していない児童生徒のために残しておきたいと考え、今後につきましても、1人当たり1回、定額2,000円の助成を継続したいと考えております。

また、「中学校入学前に補助制度が受けられるようにならないか」とご質問いただきましたことにつきましても、県の補助制度に基づいて、市として様々な方法を検討いたしました。現在行っております助成事業の手続きが、ご家庭への事務手続きの負担や市の人件費等を抑え、ヘルメット購入補助に充てられる限られた予算を児童生徒の皆さんに還元できる最適な方法でありますので、現状の制度について、ご理解いただければと思います。

道路交通法が改正され、令和5年4月1日から全ての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となり、教育委員会としましては自転車に乗る際には一人でも多くの児童生徒の皆さんにヘルメットを着用していただきたいと願っておりますので、今後も交通安全について啓発を継続するとともに、今回、横浜中学校からいただきました「自転車用ヘルメットの補助制度の充実」についてのご意見につきましては、高知県教育委員会にも共有をさせていただきましたので、この場をお借りいたしまして、ご報告させていただきます。

鏡中学校 尾崎英汰 議員：

18番。

近澤奏南 副議長：

鏡中学校 尾崎英汰 議員。

鏡中学校 尾崎英汰 議員：

はい。

少子高齢化に伴う中山間地域などの第一次産業の衰退や集落の消滅といった問題における高知市の具体的な取組について。

鏡地域には自然は勿論のこと、特産品や「太刀踊り」という素晴らしい伝統文化があります。また、地域の交通の便もよく、高知市との合併以前から保幼小中や地域との連携取り組み行事などの素晴らしい教育環境が自慢です。

しかし、年々少子高齢化により後継者不足や地域の人口が急激に減少しています。

この現状を解決するために、高知市では、段階的移住招致を行っていますが、これらは地域の多くの人たちと一体となって行っていかなければ、「地域」の良さは理解できないのではと考えています。

そこで、私たちは、まずは高知市の少しでも多くの人々に鏡地域を知ってもらおうと考え、地域の伝統文化である「太刀踊り」を花回廊で披露させていただきました。

また、地域の特産品である「梅」を剪定、収穫、加工などの一連の体験型学習を行い、学校に来客される方々に「梅ジュース」でおもてなしをし、地域の良さをアピールしています。

加えて、鏡地区では、JAや郵便局は私たちが作成した新聞や毎月の園・学校だよりなどの掲示をお願いすると快くその場で掲示してくださいます。気軽に高知市全体の動きと地域の取組をつなぐ掲示

板のような仕組みを地域で作ってくれています。

高知市では移住希望の方々に体験滞在施設「しいの木」の利用の促進をどのように行い、「鏡地域」の良さをアピールしていますか。また、「地域の空き家対策」をどのように進められていますか。これら鏡地域に関わる取組に対して、私たちができることはないかを地域の皆さんと一緒に考えたいです。地域のみんなが一体となって取り組まなければ、鏡地域が抱える問題の解決につながらないと私たちは考えます。

弘瀬 農林水産部長：

農林水産部長。

近澤奏南 副議長：

弘瀬 農林水産部長。

弘瀬 農林水産部長：

鏡地域の伝統文化、また特産品のアピールなど地域の活性化に繋がる皆さんの取組につきまして感謝と敬意を表したいと思います。ありがとうございます。

それでは、鏡地域を例とした中山間地域に対する本市の取組についてお尋ねがございましたので、順次にお答えをいたします。

まず、「体験滞在施設『しいの木』の利用促進や鏡地域の良さをどのようにアピールしているのか」につきましては、この施設は鏡地域など本市の中山間地域に興味を持たれて移住を検討されている方も多く利用する施設であり、実際に施設を利用される方には、鏡地域などの情報パンフレットをお配りするとともに、施設の管理や利用者の受け入れサービスを行っている「JA高知市の鏡女性部」の皆様のご協力をいただき、必要に応じて地域の案内などを行っているところでございます。

また、高知市内への移住希望者を対象に、リクエストに応じて市内をご案内する「高知市ガイドツアー」を開催しており、案内コースの中に「鏡コース」も設け、鏡地域の魅力を広く紹介をしております。

次に「地域の空き家対策」についてでございますが、高知市では、平成24年度から中山間地域の空き家と移住希望者をマッチングさせる「高知市中山間地域空き家情報バンク」制度に取り組んでおりますが、建物の老朽化や所有者の事情などにより、空き家があっても貸すことが難しいケースが多く、現在は紹介できる案件がない状況となっております。

しかしながら、空き家の解消は、地域が抱える人口減少や経済の衰退などを回復させていくための効果的な手段であることから、引き続き地域の区長会との情報共有を図るとともに、市内の宅建業者といった専門の団体とも協力しながら、空き家の活用促進に取り組んでまいります。

最後に、「地域の声を鏡地域にどのように返しているのか」についてのご質問でございますが、地域の皆さまからは日頃から、地区の会合や適宜庁舎への来庁時や電話等によりご相談をお聞きする機会がございますし、定期的に地区の区長が集まる会議に市長以下私も含めた担当部長も参加するなど、さまざまな会合等の機会にご意見をお聞きし、お応えをしているところでございます。

本市では、こうした住民の皆様からの貴重なご意見を、随時市政に反映させています。一例をあげますと、近年、中山間地域においては「猪などの有害鳥獣による農作物被害」が大きな問題となって

おります。

これまで、狩猟者の確保対策や有害鳥獣の捕獲報償金の単価引き上げなどの対策を進めていますが、本年度から新たな取り組みといたしまして、鏡地域での猪などの有害鳥獣対策の推進と地域活性化を目指した、「高知市地域おこし協力隊制度」を導入することとしており、鏡地域において地域の方と一緒にいわゆるジビエなど鳥獣事業や農林業等に取り組み、最終的には地域に定住していただくことを目指した事業を進めております。

現在お一人の方が決定しており、9月から地域での活動ができるように準備を進めているところでございます。今後は取り組みが進んでいく中で地域の方や学校の皆さんとも交流できる機会ができればと期待をしているところでございます。

今回のご質問の中で、地域の皆さんと一緒に考えたいとお声をいただき、大変ありがたく、また頼もしく感じております。今後も、中山間地域の課題解決のために、効果的な事業に取り組んでまいりますので、学校の皆さんにおかれましても、ぜひこれまでの取組を継続していただきながら、我々とともに地域の課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

春野中学校 坂口友伽 議員：

19番。

近澤奏南 副議長：

春野中学校 坂口友伽 議員。

春野中学校 坂口友伽 議員：

はい。

春野中学校の体育館は現在、老朽化が進み、雨の日には体育館のいたるところで雨漏りが見られます。体育の授業や部活動の最中に雨水が落ちてくることに気がつかず、誤って足を滑らせることもあり、今後、大きな怪我をする人が出るのではないかと心配しています。

今年度に入り、雨漏りがあるたびに教育委員会の方々が修繕に来てくださり、とても感謝していますが、その後も雨漏りは治まらず、大きな改善が見込めない状況です。

昨年の大雨の日には、体育館で部活動が行われている際に、天井の隅の方から滝のように雨水が流れこんできました。その時は、生徒と先生方で雑巾やモップを使い、雨水をふき取る作業を行いましたが、それに時間を取られてしまい、部活動はできませんでした。また、雨漏りがあった翌日も体育館の床がふやけて使用できないため、部活動が中止となりました。業者の方が体育館の屋根に生えている草引きなどをしてくれて、天井の隅から流れ込んでいた雨漏りは今止まっていますが、雨漏りは1か所だけではなく複数の場所から起こっています。今年の入学式では、大雨だったこともあり、新入生が座るはずだった椅子とその周辺が水浸しになるということがありました。入学式という特別な日に、一部の新入生が予定していた自分の席に座れなくなったことは大変残念であり、その新入生に対して申し訳なく思っています。このように、体育館の雨漏りが授業や部活動、学校行事にまで支障をきたしています。長い間使用されてきた春野中学校の体育館は、現状の整備では限界があり、このままでは雨漏りがよりひどくなって、体育館の劣化も進んでいきます。

私達は春野中学校の体育館が生徒や地域の方々、そしてこれから春野中学校に入学してくる後輩達

にとって、安心・安全な場所であってほしいと考えています。ぜひ、体育館の改修工事についてご検討をいただきたいです。

松下 教育長：

教育長。

近澤奏南 副議長：

松下 教育長。

松下 教育長：

体育館の雨漏りにより、体育の授業や部活動に大きな支障が生じていること、また、一生に一度の晴れ舞台である入学式で、新入生の皆さんが席の移動を余儀なくされたこと等につきまして、教育委員会として大変申し訳なく思っております。

春野中学校の体育館は、以前から雨漏りが発生しており、その都度、必要な修繕を行ってきた経過がございますが、雨漏りは原因箇所の特定が非常に難しく、今年の6月に雨漏りの修繕を行ったところでしたが、その後の台風6号でも体育館内で雨漏りが発生したと学校から連絡をいただき、業者による調査を8月21日に行い、雨漏りの原因と思われる箇所への修繕を翌日22日に実施したところでございます。

教育委員会といたしましても、学校活動に支障が生じる雨漏り等の不具合については、優先的に解決すべき課題であると認識しておりますので、今後におきましても、適宜、必要な修繕を行ってまいりたいと考えております。

また、学校の体育館は生徒の皆さんの学習や生活の場であるとともに、災害発生時においては地域の避難所としての役割も果たすことから、その安全性の確保が極めて重要であることを踏まえ、市役所内の関係各課と協力をしながら、根本的な対策の検討をしていきたいと考えております。

土佐山学舎 松本伊生里 議員：

20番。

近澤奏南 副議長：

土佐山学舎 松本伊生里 議員。

土佐山学舎 松本伊生里 議員：

はい。

土佐山学舎の松本伊生里です。私は、高知市が運営されている市バスの増便についてご提案させていただきます。

皆さんは「土佐山百年構想」について、どれくらい知っていますか？私たちの学校がある地域、土佐山は現在「限界集落」と呼ばれる過疎化・少子高齢化が進んでいる地域となっています。それらを食い止めるために打ち出されたのがこの「土佐山百年構想」であり、現在地域で一体となって取り組んでいます。また、土佐山学という学校独自の総合的な学習の時間でも、土佐山地域の活性化を図る

ために、土佐山について学び、土佐山にいかにか人を呼び込むかというテーマを掲げて学習を続けています。

しかし、現在鏡地区・土佐山地区では地域唯一の公共交通機関である市バスが減便になっている状況です。私たちは、学校への登下校ではスクールバスを利用していますが、スクールバスの時間は決まっていて、スクールバス以外で登下校する際には、保護者の送迎が必須となってしまいます。

また、地域住民からは、「土佐山から買い物などで高知市の中心街へ出ていく際には、1時間に1回程度しか市バスがなく、大変不便に感じている。」等の声も上がっています。

そのために、市バスを増便することで土佐山地域の活性化につながるのではないかと考えました。ご回答よろしく申し上げます。

中城 市民協働部長：

市民協働部長。

近澤奏南 副議長：

中城 市民協働部長。

中城 市民協働部長：

土佐山地域を運行するバスの増便に関する質問にお答えします。

ただいまご質問にありましたように、土佐山地域から市内中心部へ運行する路線バスは利用者の減少などにより、現在、およそ1時間に1便の運行となっています。

また、土佐山地域に限らず、高知市内の路線バスや路面電車といった公共交通は、利用者の減少に加えて、運転手の高齢化や成り手不足といった理由により路線や便数を現状のまま維持することが困難となってきており、路線の短縮や運行便数の削減といった対応を取らざるを得ない状況にあります。

こうした課題に加え、土佐山庁舎前バス停の利用状況を見ますと、昨年10月の実績では平日の1日当たりの利用が5.7人と少ない状況もあり、土佐山地域から市内中心部へ運行する路線バスの増便は難しい状況です。

高知市では、バス路線が廃止になった地域や、大幅に減便となった地域に新たな公共交通として、デマンド型乗合タクシーの運行を始め、現在では市内12の地域で多くの市民の皆様にご利用されるようになりました。

土佐山地域では、平成24年10月からデマンド型乗合タクシーを導入し、地域の皆様のご自宅近くから土佐山庁舎までの移動手段を提供しておりますが、令和4年10月からは、日曜祝日が運休となった路線バスに代わり、ご自宅近くから中秦泉寺バス停や指定の量販店まで運行路線を延伸しており、地域の皆様の生活を支える移動手段としてサービスを拡充してまいりました。

今後は、路線バスやデマンド型乗合タクシーの利用状況や地域の皆様のご要望などを踏まえ、交通事業者などとの協議を重ねながら、土佐山地域にお住まいの皆様にとってわかりやすく、使いやすい公共交通ネットワークの構築に取り組んでまいります。

高知商業高等学校 原菜瞳 議員：

21番。

近澤奏南 副議長：

高知商業高等学校 原菜瞳 議員。

高知商業高等学校 原菜瞳 議員：

はい。

高知商業高校では、昨年度から沢渡茶の知名度向上と後継者不足の解消を目的に、高知県仁淀川町にある沢渡茶畑の運営と、お茶を活用した商品開発に取り組んでいます。高知県仁淀川町では、お茶の生産者の高齢化が進み、後継者不足が深刻な問題となっています。

そこで私たち高知商業生は、生産者の高齢化により、運営が困難となった17ある茶畑で地元茶農家の方から学びながら茶畑の運営を行ってきました。同時に、生産した茶葉を使用したブレンドティーの開発も進め、2023年6月には「さわたりラオ茶」が完成しました。今回開発したお茶には、ラオスから仕入れた「バタフライピー」という花と高知県産のゆずを配合し、ブレンドしています。

また高知商業高校は、今年でラオスとの国際交流が30年目を迎えます。この節目の年に、開発した商品の海外での販売・流通させることを目標にしています。

しかし、現在私たちには、海外での商品販売の方法や流通の仕方の知識やノウハウがありません。そこで、2つお願いがあります。

1つ目は高知市の海外で流通している製品の事例を教えてくださいませんか。

2つ目は、高知市の海外での販売や流通方法やそのノウハウを学ぶ機会を設けていただけませんか。

この商品の売り上げの一部は、沢渡茶のPR活動などの地域貢献活動や、ラオスの子どもたちの質の高い教育の実現に向けた活動資金に充てられます。

海外での商品の流通が可能になれば、高知県の特産品である「沢渡茶の知名度の向上」につながるだけでなく、ラオスの子供たちの質の高い教育の実現につながると考えます。

高知の特産品を守り抜き、高知市と国際社会の明るい未来を創っていくのは、ここにいる私たちです。高知市の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

岡崎 市長：

市長。

近澤奏南 副議長：

岡崎 市長。

岡崎 市長：

高知商業高校の皆さんが30年間続けておられますラオスの学校建設活動につきましては、内外から非常に高い評価を受けておられて、そのことに我々も敬意を表したいと思います。

皆様方のこの長い活動はそれぞれの国際交流の理解の礎を築き、また交流の架け橋となっておりますし、また、皆様方がラオスに行かれる体験は、一生の財産になると思うところでございます。

ラオスの交流から始まりましたこの「さわたりラオ茶」ですけれども、先月、私も実際に飲む機会をいただきました。「苦みがなく、非常に飲みやすいお茶」という印象で、多くの方々に知っていただ

きたいと思われましたので、市役所にも県外からの様々なお客様もいらっしゃいますので、贈答用ということで、いくつかは購入をさせていただいたところでは。

また、先月末に日曜市を廻る機会がありましたが、日曜市でも高知商業の皆様方が熱心に販売されておられましたので、高知市におきましても例えばふるさと納税の返礼品として活用できないか、担当課の方でも検討しているところがございます。

さて、ご質問の「さわたりラオ茶」ですけれども、海外でも販売したいというご質問でしたが、まずは商品を知っていただくということが重要ですので、こういう商品のバイヤーを通じて行うことが一般的であります。

それぞれの希望する国への販売のルートを持っておりバイヤーが来場する展示会に出展をし、バイヤーの方々にまずは飲んでいただくことなどで商品を知っていただくことで、具体的な商談がそこから始まるというのが一般的でございます。

我々も色々な展示会にも出店をする機会がありますので、その展示会の出店後にバイヤーの方々と協議をし、商談をするということで、それぞれ販路を広げていくという活動もあるというふうに考えております。

また最近では、WEBの販売等もありますけれども、やはり対面で実際に飲んでいただいて、バイヤーの方々と商談をしていただくことが、一番効果がありますので、様々な機会を捉えて、交渉していくことが一つの手法となっています。

ただ一つ、それぞれの輸入先におきます、海外の国におきましては、色々な取扱いが定める加工食品の衛生基準や商品ラベル表示、添加物、着色料などの規準がありますので、専門的な相談が必要であると思えます。

これは、一定海外の事情に精通しております、例えば高知貿易情報センター（ジェトロ高知）などで、貿易の専門家の方々にも意見を聞いていくという必要がありますので、商談のつなぎは我々もできますので、またご相談をしていただければと思っています。

また、国内の様々な新商品の開発のためのコンテストがありますので、例えば、そのようなところでのエントリーや高知県地場産業の商品開発等へのエントリーをし、いくつか情報を収集しながらチャレンジしていく事も重要だと思えます。

また、高知市役所でもいろんなルートがありますので、皆様方の活動を応援していきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしく申し上げます。

近澤奏南 副議長：

以上で、通告による質問はすべて終わりました。

このたび、岡田咲議員ほか20名から、令和5年度こうち志議会宣言が提出されました。内容を説明させていただきます。

事務局長：

これより、岸本陽奈議長、近澤奏南副議長が、令和5年度こうち志議会宣言を読み上げます。

近澤奏南 副議長：

令和5年度こうち志議会宣言。

私たち志議会議員一同は、本日、令和5年度こうち志議会を終えるにあたり、人と自然が共生し、未来に向かって持続的に発展できる、思いやりにあふれる都市高知を目指して次のことを宣言します。

1. 共生と安心の環

これからの社会はジェンダーにとらわれることなく、一人一人の個性や生き方をお互いに認め合い支え合う社会の実現が求められます。高知で生きる私たちも、互いを尊重し、助け合うことが大切です。そのためには、学校や行政といった枠組みを超え、それぞれの地域が一つになることが大切です。地域との連携協働した学習を通して、異なる年齢や性別を超えた、人と人が支え合うまちづくりの担い手になります。

2. 育みの環

新型コロナウイルスによる活動制限を受けるなかで、AIの発達や、ICT機器の性能向上が加速的に進み、私たちの生活には大きな変革が起きています。ネットワーク技術の向上によって、出会いの輪が広がり、地域や世代を超えた交流が促進されています。私たちはこれから、人工知能やICT機器を活用する技術と、多様な人々とコミュニケーションをとる力、また新しい世界を切り拓いていく力を身に付けていきます。

岸本陽奈 議長：

3. 地産とまちの環

高知市の人々の温かい心や訪れる人を優しく包み込むおもてなしの力が、地域や産業を活性化する原動力となっています。私たち若者は、高知の歴史・文化・産業など、それぞれの地域の特性を学び、高知市の未来を担う一員として成長していきます。また、多くの人が高知で住み続けたいと思えるまちにするため、自ら高知の歴史・文化そして防災について学び、行動を起こします。

4. 自立の環

高知市の伝統的な文化、豊かな自然、産物、そして温かい人柄は世界に誇れる財産です。この財産を私たち若者が後世へと受け継いでいくとともに、発展させ、国内外の方々の「高知に行きたい」「高知で住みたい」という思いを引き出します。そのために、日々の学校生活や生徒会活動での学びを糧に、私たちが地域、そして世界とつながり、新たな風をもたらすことのできる持続可能な活動に挑戦していきます。

今回のこうち志議会を通して、高知市が抱える課題や現状を再確認できたとともに、地域課題に対する取り組みについて考えることができました。この経験から、高知の伝統を守り、新しい高知を創っていくのは私たち若者であり、その志を持つことが大切だということを実感できました。

そしてその志を持った行動として、18歳を迎えた時に自分の意思を持って選挙に行くことが重要であり、若者の高知市に対する意識の向上につながると考えます。

ずっと住み続けたいと思える高知市の実現のためには、私たち自身が高知市のことを学び、考え、

持続的に変化できる存在にならなくてはいけません。高知市民の一員という自覚を持ち、高知や日本、そして世界について学び、高知市がさらに輝く未来のまちづくりに参加していくことを、ここに宣言します。

令和5年8月24日

令和5年度こうち志議会議員一同

岸本陽奈 議長：

議長を交代いたしました。これより採決いたします。令和5年度こうち志議会宣言に賛成の皆さんの起立を求めます。

起立全員であります。よって令和5年度こうち志議会宣言は、原案のとおり可決されました。

閉会にあたり岡崎市長からごあいさつがあります。

岡崎 市長：

市長。

岸本陽奈 議長：

岡崎市長。

岡崎市長：

ただいま素晴らしい宣言を議決いただきまして、御礼申し上げたいと思います。

「こうち志議会」の閉会にあたりまして、まず、岸本議長、近澤副議長をはじめとします議員23名の皆様方、大変有意義な時間を過ごさせていただきまして誠にありがとうございます。

また、中学校や義務教育学校の皆様から、学校に関すること、また市政に対する提言、防災、交通安全、少子化の対策また地域振興など、時宜(じぎ)を得た皆様方の様々な切り口で、今の時代にふさわしいご質問をいただきまして感謝申し上げます。

日頃の、学校生活や、地域の一員として生活する中で課題を感じていることに対しまして生徒会を中心に熱心に調べたうえで、議論をし、中学生らしい瑞々しい視点をもって高知市政のために様々な角度でご提言いただきましたので、我々も大変有意義な時間を過ごすことができました。

それぞれの部局から、また私と副市長から答弁させていただきましたが、皆様方からいただきました提言を、我々執行部としましてもそれぞれ個別に掘り下げながら今後の市政の執行にあたっての参考、また活動に活かしてまいりたいと考えております。

また、皆様方に一つのご願いですけれども、是非、高知市の中学生の代表としまして、各学校の生

徒会執行部の方々や学校の皆様方に、本日どんな議論がなされたかをお知らせをしていただけたら、我々も大変幸いです。本日は大変多くの方々にも傍聴に加わっていただいております。傍聴された皆様にも感謝申し上げたいと思います。

また、高知商業高等学校の皆様方につきましては、先程のラオスの活動を含めまして、独自の活動、展開をされておりますので、その点においても感謝申し上げたいと思います。

議長の岸本さん、副議長の近澤さん、堂々とした議会の進行をありがとうございました。また、「こうち志議会宣言」を採択していただきましたが、議長と副議長のお二人が21名の議員さんから提出された原案をまとめてくださったものと聞いておりますので感謝申し上げたいと思います。

「こうち志議会宣言」を、執行部としてもしっかりと胸に刻み、これからもさまざまな活動、挑戦をしていきたいと思っておりますので、今後ますますのご活躍を期待しております。

最後になりますが、関係者の皆様、また傍聴してくださいましたそれぞれの方々、また保護者・市民の皆様方に心から御礼を申し上げまして、閉会のあいさつとさせていただきます。本日は長時間に亘りまして大変ありがとうございました。お世話になりました。

岸本陽奈 議長：

議員の皆さん、お疲れさまでした。また、岡崎市長さんをはじめとする執行部の方々、ご丁寧な答弁をありがとうございました。さらに、本日、お忙しい中、傍聴に来ていただいた皆様方にも心から感謝いたします。

これにて、令和5年度こうち志議会を閉会いたします。